

No. 271

# 全 日 本 仏 教 会

9 / 56



## 季節の終りに

終戦後三十六年を経た今日、戦後生まれが、人口の過半数を占めるようになった。そして今、戦後二回目の世代交代期が巡ってき、各界において若返りが進みつつある。この傾向は世界においても同じで、次の時代がすでにしのびよる、季節が変わるのを待っているのである。

国の発展のために、人類の幸福を追求するために、という旗印を掲げつつ、日々社会は変化している。

その激流の中で、変化に恐ろしくとなく、社会の情勢を正確に認識すること。そして謙虚に思考して行動するべく、常に新たな視点に立つ社会の要請に応える努力をすること。それが、世界平和という彼の岸へ至る道ではなからうか。

## 太田 香龍忌

(太田市大光院)

|| 解説・8面にあります ||

全日本仏教会

# ルンビニー委員会

## 初会合 委員長などを選出

第一回ルンビニー復興日本仏教徒委員会は、八月三日午後二時から、増上寺内明照会館会議室において開催された。

この委員会は、去る五月二十六日の理事会において承認された、ルンビニー復興推進のため、従来の準備委員会を拡充し、募財目標額、募財方法等、協力内容について検討する、という議案に基づいて設置されたもので、全仏加盟の十二宗派、四都府県仏、三団体より推薦された代表委員によって構成されている。

第一回の議題は、①委員会が結成されるまでの経過報告、②事務局案による組織図の検討（会長、副会長の具体的人選等）、③募財目標額の設定についての検討、④復興すべき具体的地域の検討、⑤募財方法の検討、などであった。

まず齋藤理事長、日野事務総長の挨拶が始まり、とりあえず日野事務総長が座長に就任。つづいて、安本国際文化局長から、委員会結成に至るまでの経過報告がなされた。さらにその補足という意味も含め、当委員会の前身、ルンビニー復興準備委員会の委員長だった柳了堅師より、経過説明が行われた。

次に、委員長、副委員長の選出へと移

った。まず、樹谷淳宣、小峰一充、那須徹夫、稲田稔界、江連俊則の各氏が委員長・副委員長選出委員として推薦され、別室にて審議を行った。その結果、委員長に、加藤海晃師（日蓮宗）、副委員長に、三宅心戒師（曹洞宗）、岩崎宗秀師（東仏）、全日仏婦から一名の三氏が選出された。

これら各師が、正式に委員長・副委員長をお引き受けただけか否かは、それぞれの所属団体と協議した上で、決定されることになった。

なお、次の委員会は、九月二日に開催されることがきまり、この日審議できなかった議題については、事務局で詳細な資料を用意し、再度議題として提出することになった。

【出席】森田禅朗（和宗）、加藤海晃（日蓮宗）、中島義観（妙心寺派）、山本俊幸（静岡県仏）、塩入亮達（聖観音宗）、江連俊則（埼玉県仏）、樹谷淳宣（本願寺派）、本間孝康（神奈川県仏）、田中光成（全日仏書）、那須徹夫（大谷派）、小峰一充（智山派）、畑直孝（東仏）、稲田稔界（浄土宗）、山田一真（高野山）、柳了堅（準備委員長）

## ルンビニー視察（釈迦生誕の地）とカトマンズの旅7日間

昭和56年11月9日(月)～15日(日)

参加費用 ￥369,000

バンコク、カトマンズ、バイラワ、ルンビニー訪問

**日本旅行** 渋谷営業所

〒150 東京都渋谷区渋谷3-8-12  
03(407)5211(代表)  
日仏ネパール係まで

主催 全日本仏教会

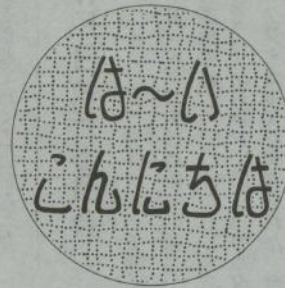
### おすすめの言葉

ルンビニーは釈尊ご生誕の地として、私たち仏教徒にとって最も尊崇されている聖地中の聖地であります。この聖地を復興して、名実共に立派な聖地とする計画は過去十数年来の私たちをはじめとする世界仏教徒の悲願であります。去る昭和53年10月に我国で開催されました第12回世界仏教徒会議において、ルンビニーの完全復興が全会一致で決議されました。そこで本会といたしましては、各宗派、都道府県仏加盟団体の代表者の方々が、かの聖地へ赴き、着々とすすめられている復興状況を視察すると共に、ネパール政府高官等と懇談の機会を持ち、具体的に世紀の大事業完遂への歩をすゝめることは、まことに意義深いものと存じます。どうかこの機会に各宗派、都道府県仏加盟団体代表者の方々はもちろんのこと、多数の仏教徒の皆さまがふるってご参加されますよう心から希望いたします。

昭和56年6月

財団法人 全日本仏教会  
事務総長 日野照護

# 仏教英語研究会



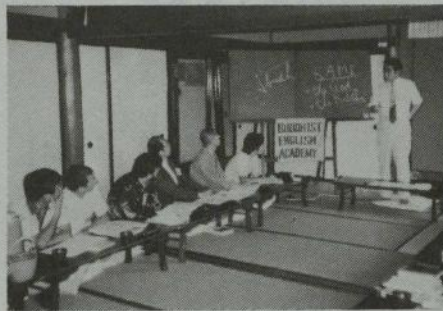
⑤

## 毎年サマーセミナー

英語で仏教を話す人をつくろう—  
と、去る昭和五十三年のWFB第十二  
回東京大会を契機に再発足した仏教英  
語研究会。毎年夏に、サマーセミナー  
を開催していると聞き、さっそくお訪  
ねしてみた。場所は高雄山大乗寺（曹  
洞宗）の箱根別院。

夏休みとあって、家族づれや若いグ  
ループでにぎわう箱根湯本。強羅、早  
雲山と登るにつれて、さすが下界がウ  
ソのように涼しくなる。別院の入口に  
は「Summer Seminar Buddhist En  
glish Academy」と英語の看板。純和  
風の建物に、横文字の看板がやや奇異  
な感じだ。さっそく理事の山田一真師  
にインタビューしてみた。

「仏英研は、もともと第二回のWFB  
大会（昭和二十七年）を東京で開催  
した際、ボランティアとして通訳をか  
つて出た学生が中心となり発足したも  
のです。その後、まあ休会のような状



熱心に講演を聞く参加者

態でしたが、三年前にWFBの東京大  
会が開かれた時、英語で仏教を話せる  
人材を養成しようとして再発しました。  
現在、研究員は二十四人ですが、皆熱  
心なこの夏期合宿をはじめ、いろいろ  
な活動に取り組んでいます。」  
ところで、会の活動について紹介する  
と、まず定例研究会。毎週月曜日  
の夕方、仏英研理事の人たちが講師と

なって、仏教の講義を英語で行う。最  
初は、仏教系大学などの学生が対象だ  
ったが、近頃、主婦やサラリーマン、  
在日外国人など、お寺と直接関係ない  
人も増えてきているという。

## 二十二人が合宿参加

次は、外国人向けの寺院めぐりツア  
ー。日本にいる外国人に仏教を知って  
もらおうと、これまでに二回実施。特  
に「坐禅と寺院めぐり」をテーマとし  
た第二回の鎌倉ツアーは、英字新聞に  
載ったことなどもあって、折日から来  
日中だったシェイクスピア劇団の俳優  
なども参加、盛況だった。

さらに、英語による仏教と日本文化  
の研究発表会。この二月に行われた第  
二回大会では、出場者十二人のうち、  
外国人発表者が四人を占め、また聴衆



箱根のセミナー会場

の中にも外国人が多く、彼らの日本仏  
教に対する関心の高さを感じさせたと  
いう。

この他、来日中の外国人仏教学者を  
招いての特別講演会など、多彩な活動  
が展開されている。それでは、セミナ  
ーの様子をのぞいて見よう。

第三回を数えた今回の合宿参加者は  
二十二人。外国人の顔も、何人か見え  
る。ちょうど、研究会々長・花山勝友  
武蔵野女子大教授の、英語による講演  
が始まっていた。

畳敷きの大広間に、あぐらや正座な  
ど思い思いのスタイルで座っている参  
加者。ジーンズ姿の若者が多い中に、  
サラリーマン風の年配者もチラホラ。  
女性は三人。花山師の身ぶりをまじえ  
たユーモアたっぷりな話には、時折、爆  
笑が広がる。窓下には、雄大な山々が  
のぞめ、蝉時雨がうるさいほどだ。

このセミナー、三泊四日にわたり、  
上級、初級二クラスに分れての講義の  
他、理事である佐伯真光相模工大教授  
や小笠原隆元駒沢大助教授の講演、さ  
らに英語で日本仏教を紹介した映画の  
上映、ハイキングなど、実に盛りだく  
さんなプログラムが組まれていた。

将来は、英語の仏教用語辞典をつく  
るのが夢、と語る山田理事。国際化が  
進む一方の日本社会で、今後、仏教を  
英語で話すことの重要性を、痛感させ  
られたサマーセミナーであった。

# 税務委員会も初会合

第一回税務委員会が、八月十九日午後二時より東京・明照会館会議室で開かれ日野事務総長挨拶のあと、豊田総務局長を座長に選出して議事に入った。

一、委員長・副委員長選出について  
委員長・鈴木靈孝、副委員長・神野真一、河野亮永の各師が選出された。

一、委員会の構成と性格について  
構成については今後の活動により増員も考える。性格については、迅速に動けるような規約を検討することとなった。

一、委員会の今後の方針について  
当面する問題、長期的な展望の二面から協議し、多種多様な問題を整理して今後研究を重ねて行くことになった。

## WFB執行委員会

ジャカルタなどで開く

WFB（世界仏教徒連盟）の第二十五回執行委員会は、八月二十一日から二十五日まで、インドネシアのジャカルタ及びジョクジャカルタで開催された。今回は、一九八三年にWFB世界大会の開催が予定されている、インドネシアのセニターが中心となって進められた。

執行国四カ国の一つとなっている日本からは、負傷している鎌田国際部長の代理として、磯山庶務部長が出席した。

## 全仏税務委員会委員

藤原正秀（曹洞） 広井正保（本派） 栗津秀雄（大派） 新井智清（日蓮） 中野浩

## 「宗教法人読本」

購読のおすすめ

この度、日本宗教連盟編纂になる「宗教法人読本」が発刊されるはこびとなりました。宗教法人の管理運営、会計、税務等実務に即して体系的に解説したもので、各宗教法人にてお備えになられることをお薦め致します。

なお、本の内容、価格、申込先は下記の通りです。

道（妙心） 中村義英（智山） 大多喜義忍  
（天台） 鳥居慎普（豊山） 鈴木靈孝（浄土） 北川智城（高野） 河野亮永（埼玉） 大越孝仁（茨城） 畑直孝（東京） 加藤康照（栃木） 神野真一、岩脇宏信、花木義光、伊東脩己、羽生雅則、長谷川正浩（以上全仏推薦）

内容 記  
(1) 宗教法人の社会的役割  
(2) 宗教法人法と宗教法人  
(3) 宗教法人の管理運営  
(4) 宗教法人の実務  
(5) 宗教法人の事業  
(6) 宗教法人の税務

価格 二千円の処、期間内は一割引  
申込先 港区芝公園四一七—四  
全日本仏教会庶務部宛  
〇三（四三七） 九二七五  
締切 九月二十五日

## 全仏 理事会、評議員会

来月二日に開く 機構改革答申など審議

全仏の理事会、評議員会が左記の通り開催されることになりました。

日時 昭和五十六年十月三日（土）

午前十一時 評議員会

午後一時 理事会

場所 東京グラウンド・ホテル

今回は、ルンビニー復興問題、及び機構改革特別委員会の答申に伴う、寄付行為改正問題などが、主に審議される予定です。

## 宗教界には最もゆかりの深い菩提樹と蓮の花を育ててみませんか!!

成道ゆかりの樹……菩提樹（印度ブッタガヤ産直輸入品） 苗代¥10,000（鉢付）

極楽浄土の華……蓮（チャワンパス通称姫蓮） 苗代¥ 7,000（鉢付）

上記の品二点を同時予約注文の場合 特別価格¥15,000

お申込、お問合せは下記のいずれかの所へ御一報下さい！

東京池袋 西武不動産(株)園芸営業所 ☎(03)989-2755  
〒171 東京都豊島区南池袋1の16の15(西武鉄道ビル内)

名古屋 資梅金商店 ☎(052)241-0901(代)

(有)かたばみ商事  
〒460 名古屋市中区大通三丁目39番33号



# 全日仏青正本委員長に聞く

## 救援委員会を中心に

### 実践活動と組織拡充を



全日本仏教青年会の新理事長に就任した正本乗光師（三十七歳）は、東京仏青（浄土宗）所属で、仏青歴二〇年を超える活動家である。抱負を一言、お聞きしてみよう。

——これまで仏青とどうかかわってきただか、簡単に紹介下さい。

高校（慶応）時代に、担当の先生にさそわれたのが最初の縁で、大学でも引き続き続いて活動することになりました。慶応を卒業後、大正大学で勉強している時に、当時の全日仏青、まあ今とはかなり性格が異なりますが、その事務局長をお

引き受けしたのです。その後しばらく、東京仏青とか宗派の仏青で活動して、三年前のWFB東京大会の時にはWFBYのホスト側として、お伝えさせていただきました。

——全日仏青の現状は？

各宗派や地域の仏青、さらに私が所属している増上寺の仏青である東京仏青など、全部で二十二の団体が、現在の構成母体です。それらの団体から出た常務理事・理事が、理事会で役員を選出し、まあ実際の活動は、役員が中心となって進められます。その他、国際委員会と救援委員会という、二つの委員会が設置されています。

——ところで、新理事長として、抱負を一言お願いします。

まず、仏教の基本である慈悲行、菩薩行といったことを、個々の仏青ではなかなかやりにくいと思いますので、救援委員会を通して、いろいろな形で進めていきたいと考えています。きっかけとなったのは、例のカンボジア難民救援活動で

した。これは全日仏青の歴史の中で、初めての実践的活動といえましょう。全国から多額なカンバが寄せられ、また現地へ実際に行つてのボランティア活動は、わざわざ日本から若いお坊さんが来てくれたと、大変な反響でした。延べ、二百人近くの人が行きましたが、帰国後、皆行つてよかった、何より自分の勉強になったと、こもこも話しています。救援委員会の活動は、カンボジア難民だけでなく、日本国内にも目を向け、できることから手をつけていくつもりです。

もう一つは、組織の問題。ここ数年、組織を拡充するという活動は、必ずしも充分ではなかったと思います。我々の仲間に入っていたく団体を一つでも増やしていきたいですね。

——今年の主な催しは？

十一月に神奈川で大会を開くつもりです。昨年は大阪で開かれ、全日仏青のあり方をめぐって、かなり真剣な討議がなされましたが、残念ながら時間が短く、あまりつこんだ話し合いができませんでした。今度は一泊二日で、中身のあるものになりたいと思います。

——今後の仏青活動で、大切なのはどんなことでしょうか。

一般の若い人に対する、仏教の啓蒙とということが、仏青活動本来の目的でしょう。それには、救援活動や国際交流などを通して、社会へアピールしていかねければなりません。そして、若者たちが持っているお寺に対する異和感を、少しでもなくせれば、と考えています。

## 上信堂上川金太郎商店

- 墓地用線香製造販売
- 各種墓地用品販売
- 各種薫香販売

本店 東京都豊島区巢鴨4-8-7  
TEL (03) 917-1734  
東北出張所 山形市山寺(堀川商店内)  
TEL (0236) 95-2742



一方、新体制への準備は刻々進展していることが、ラサ国立教育大学を見学することによってわかった。これは開校して五年、チベット地区にある四校の一つで、校舎、宿舍等、なお建造

## チベット仏教の現状 (下)

市村 承 秉

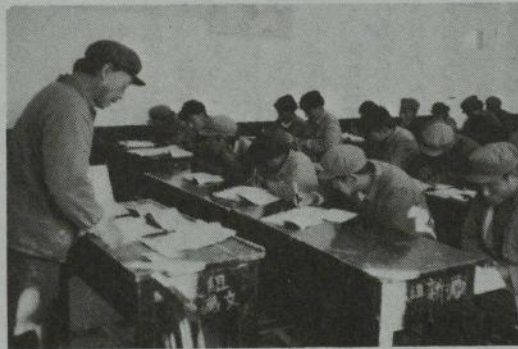
途上にある。学生総数八二四人(うち四五六人が小教種族出身、三学部十一学科、二三七人の教授陣(うち七六六人が小教種族出身)を持つという。しかし、使用語は中国語で、チベット語ではない。ここに中国化政策の一端を見ることが出来る。これら教育大学で養成された青年教師たちが、やがて小中学生を指導することになれば、ダライ・ラマを象徴とする旧体制意識は、当然急速な変化を遂げるに違いない。

とはいっても、宗教的元首に対する帰依の感情は、今なお一般に特別なものがある。先述の市場では、現十四世ダライ・ラマの写真が飛ぶように売れるというが、その名称を口にすると、聞かざるを問わず、敬虔な心は人々の所作に表現されていた。それにしても、ラサ市外にある代表的コミュニティの生活には、その様な宗教意識がほとんど感じられなかったことを思うと、現在チベットには二者相異なる社会意識が、各々独立に並存しているとしか考えられない。

ただし、宗教の弾圧と制限付自由化は共産主義革命の定石であるが、チベットにおける自由化政策は、政治的というよりはむしろ、社会経済上必要なものではなかったかと思われる。なるほど新体制は施行されてきた。しかし旧体制に生きる過半数の大衆は、その計画経済機構や生産目標達成には、とても参加し得なかったであろう。ポタラ宮殿で拝観できる、歴代ダライ・ラマの墓所を飾る金銀宝玉の富は、莫大

なものといわれるが、経済生産余剰のこのような消費は、新体制のそれと極端に対立する。

ラサ滞最終日には「世界の屋根」と題する、中共科学局制作の映画を上映してくれた。チベットの持つ資源は莫大で、中国人の開発意欲には満々たるものがある。今日、チベット地区経



済計画の焼き直しと呼ばれている時、「中共政権は何とかして、新体制というバスに乗り遅れた大衆を、ダライ・ラマの宗教的指導力によって、生産過程に動員したいのであろう」とする臆

測も、当然成り立つことがわかった。昨年ダライ・ラマが中共の帰還要請を退けた裏には、このようなタイミン

グの問題も、充分考慮されたに違いない。時の経過がはたしてこの宗教的權威者に対して、有利に作用するであろうか、それとも不利に作用するであろうか、チベットの門戸開放に踏み切った中共側も、この点充分計算に入れてのことであろう。政治上の変化には予測し難いものがある。

しかし、ダライ・ラマの帰還、不帰還にかかわらず、チベット本土の仏教徒はいずれ世界仏教徒連盟に代表されなくてはならない。昨年第十三回仏教徒会議を前にして、中国仏教会は近い将来、代表団を再び送りたいと提案してきた。チベット仏教は、中国人の仏教とは確実に異った性格や伝統を持つ独立した組織体系である。はたしていかように、チベット本土の仏教が代表され得るであろうか。

政治的に統合されたものは政治的に分離され得るが、宗教的に分離されたものは二度と統合され得ないとするのが、ヨーロッパ近代史の経験するところである。しからは、人種も言語も異なるチベット人と中国人とは、どうであろうか。

インドに亡命する、ダライ・ラマ法王、チベット本土における仏教徒、そして中国仏教会、これらをめぐる複雑な関係において、世界仏教徒連盟のはたせる役割は、奈辺にあるのであろうか。

### 機構改革特別委開く

委員長選出次回へ

昭和五十六年度の第一回機構改革特別委員会は、七月二十七日午後二時から全仏会議室で開かれた。日野事務総長の挨拶につづいて、中村財務部長から各委員の紹介があり、小野島事務次長を座長に選出して議事に入った。

まず中村部長から、これまでの委員会の経過報告がなされ、委員長、副委員長の選出に移ったが、出席委員が少ないため、次回にもちこすことを決定。次に全仏会長・副会長推薦委員会細則の検討、

全仏理事長選定内規の再検討等の議題を審議、重要な問題なので、次の委員会に継続してつめることとなった。

### 第二回同和委員会

去る六月十九日、午後一時から、京都の真言宗智山派宗務所を会場に、第二回同和委員会が開かれた。

今回は、部落解放研究所から各宗派に送附されたアンケートの、回答状況について審議された。六月十八日現在、六十五宗派中、すでに二十三宗派から回答がよせられているが、委員会としては、回答のない宗派へは催促し、このアンケートを小冊子にまとめ資料とすること、ま

た問題意識の薄い宗派へは、何らかの形で指導していくこと、を決定した。

### 全仏センター委員会

去る七月三日、午後一時から、第四回全仏センター建設準備委員会が、全仏会議室で開催された。

最初に、現在の明照会館二階へ事務所が移転した経過が報告され、現事務所の契約期間が二九年となっているが、委員会として継続を要望することを決定。また「全仏センター」(仮称)については検討を続け、次回の委員会に報告することとなった。

## 同和推進のために

町田発言を契機として「同和問題に取りくむ全国宗教者結集会」が持たれ、さらに同じく「宗教教団連帯会議」の結成を見るに至った。部落差別の現実に取組むことを抜きには、もはや宗教者とも、また社会に伝える教団とも名告り得ないことを確認し、宣言したのである。画期的なことをいま宗教者自らの課題としたのである。

画期的なことは、これまで宗教者は、仏の国、神の国に独りよがり酔っていたのである。今日只今の問題に関わることなくして宗教者とは、現

⑤

### 橘 了法

同和委員会委員長

実を麻痺させるただセレンモニーの執行人だけだったのか。「宗教は阿片」といわれるところ。かつてなかったことを、いま漸くにして自らの課題としたのである。新しい自らの出発である。すでに「国民的課題」とされていることを、さらに宗教人自らの責任課題とし、教団の世にある使命と自覚したのである。

わが仏教界のなかで、水平社発足以前の時期において一宗の課題と標榜しつつ、それが宗門内部に終始したとこ

ろに、いまたに啓発活動の段階に止り、宗門全体の実践となっていないかった、そこに大地の警鐘を受けたのであった。

それはこうした運動が、もってクロールバルな全仏教的な性格の課題として位置づけられていかなかったからである。つまり宗派を超えたものでなければならなかった。それがいま出発したのである。そこには実践の願いは連帯を呼び、連帯に支えられて実践はあり得ると詠われる所以である。

ありきたりのセレンモニーはしばらく措き、この一事に賭けることにおいて仏教の蘇生はあり得るのであろう。

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 田田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

昭和57年版

全仏手帳

申込み受付中

全仏総務局では、左記要領にて「全仏手帳」を発行します。部数に限りがございますので、御注文は早めに。

内容 三掃依文、四弘誓願、宗門聖日、加盟団体役員住所録、忌日早見表、その他

サイズ 9×14cm

定価 五五〇円(送料実費)

申込先 東京都港区芝公園四一七一 全仏総務局

「全仏手帳係」宛

### 大韓仏青の代表団

一行九人が来訪

去る六月三十日、大韓仏青の代表団が全仏事務総局を訪れた。宣晋圭会長以下九人の一行は、全日仏青（正本乗光理事長）が国際交流活動の一環として招いたもので、全仏では齋藤理事長、日野事務総長、安本国際文化局長らが出迎え、懇談した。一行はこの後、全日仏青と日韓仏教青年会代表者会議を聞くなどの交流をはかった後、東京近郊の名刹などに参拝、七月四日帰国した。

### 掲 ◇ 示 ◇ 板 ◇

浄土宗西山禅林寺派

▼新しい宗務総長に、井上俊夫師が就

### ＝表紙の写真＝

### 太田吞龍忌

（群馬県太田市 大光院）

大光院開山、然誓吞龍上人（一五五六―一六三三）の忌日法要。吞龍上人は、間引き等が行われていた当時、多数の幼な子を弟子の名目で養育するなど、慈悲行に篤い高僧だった。そこで今日でも「子育て吞龍様」

任された。

妙見宗

▼新しい管長に、野間秀昭師が就任された。

茨城県仏教会

▼茨城県仏教会では、去る六月十七日から十九日まで、沖繩追悼会を、現地に実施した。

### 哀 悼

中山理々師（全仏常務理事）

七月二十七日、東京品川の昭和医大病院で、脳塞栓のため遷化。八十六歳。七月三十日密葬が、また八月三十一日には本葬が行われた。

真宗大谷派宗会議員、全仏初代国際局長、財団法人日本仏教鐘仰合理事長、さ

として信仰され、無事成長や安産等の祈願に訪れる参拝者が絶えない。

九月七日―九日の開山忌には、大祈願会と大法要が勤められる。大法要には、散華行道をはじめ、十二人の稚児による百味供養や、礼讃舞（三尊礼）の奉納が厳粛に行われる。奏楽と声明の中で舞う稚児の姿は華麗でもある。

また、八日の御速夜法会には、初夜礼讃や百万遍念仏が修行される。本年の大法要は、七日午後二時から行われる。

らに東京博善社々長、仏教タイムス社々長など、種々の要職を歴任。また多数の仏教関係国際会議に出席した。

浅井 堅教師（全仏元常務理事）

七月三十日、埼玉県越ヶ谷の自坊、金剛寺で心不全のため遷化。七十二歳。八月二日密葬が行われた。本葬は九月十四日に予定されている。

真言宗豊山派宗会議員、教化部長、総務部長などを経て、四十九年には宗務総長となる。その他宗門の要職を歴任。第十二回WFB東京大会では、実行委員会副委員長をつとめた。

### 事務総局録事（七月、八月）

（七月）

三日 全仏センター準備委員会

第二十八回全仏大会幹事会

八日 日宗連理事会

二十一日 局内会議

二十七日 機構改革委員会

三十日 文化会議講師打ち合わせ会

中山理々師密葬参列

（八月）

三日 第一回ルンビニー委員会

十八日 局内会議

十九日 第一回税務委員会

二十一日 WFB執行委員会（ジャカルタ、二十五日まで）

二十八―九日 第十四回日本仏教文化会

議

三十一日 局内会議

発行所 財団法人 全日本仏教会

## 仏教説話大系

●監修中村元・増谷文雄●推薦(財)全日本仏教会 第1期全20巻10月より刊行 各巻3,500円

史上初の試み 現在あたる限りの仏教教典をはじめ世界各地の伝承民話、近代までの仏教文学を基に、釈尊伝・高僧伝なども含めた、今までにない仏教文学の一大集大成です。  
読み易く分かり易い 衆生教化の資料としてお使いいただけるよう、だれにでも読みこなせる、平易な文章表現です。  
ブッダの心の響きを伝える物語の数々 釈尊の生涯・釈尊の弟子たち・ジャータカ物語・比喻と因縁・高僧伝・伝説と民話・新選仏教文学集・地獄と極楽——仏教の世界観

お申込み・資料請求先 **すずき出版** ●本社 〒113 東京都文京区本駒込6-4-21 ☎03-945-6611(代)

東京都港区芝公園四一七―四 電話〇三(四二七)九二七五

昭和五十六年 九月一日発行 九月号 第二七一号

発行人 日野照正 編集人 安本利正